2021年９月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年８月13日

上場会社名	株式会社ディ・アイ・システム			上場取引所	東
コード番号	4421	ＵＲＬ　http://www.di-system.co.jp/			
代表者	（役職名）	代表取締役	（氏名）長田　光博		
問合せ先責任者	（役職名）	専務取締役　管理本部・経営企画室担当	（氏名）関亦　在明	ＴＥＬ	03（6821）6122
四半期報告書提出予定日		2021年８月13日	配当支払開始予定日	―	
四半期決算補足説明資料作成の有無：無					
四半期決算説明会開催の有無　：無					

（百万円未満切捨て）

１．2021年９月期第３四半期の連結業績（2020年10月１日～2021年６月30日）

（１）連結経営成績（累計）　（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2021年９月期第３四半期	3,478	6.1	226	54.7	228	54.0	155	60.2
2020年９月期第３四半期	3,277	19.0	146	17.3	148	36.9	96	44.8

（注）包括利益　2021年９月期第３四半期　156百万円（59.5％）　2020年９月期第３四半期　98百万円（45.9％）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年９月期第３四半期	50.86	50.65
2020年９月期第３四半期	31.77	31.67

（注）当社は、2021年１月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「１株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後１株当たり四半期純利益」を算定しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2021年９月期第３四半期	2,094	1,031	49.2
2020年９月期	1,764	910	51.6

（参考）自己資本　2021年９月期第３四半期　1,031百万円　2020年９月期　910百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年９月期	―	0.00	―	25.00	25.00
2021年９月期	―	0.00	―		
2021年９月期（予想）				12.50	12.50

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は、2021年１月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。2020年９月期の配当金については、当該株式分割前の実際の配当金の金額を記載しております。

３．2021年９月期の連結業績予想（2020年10月１日～2021年９月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	4,933	15.2	181	70.0	180	63.9	121	55.6	39.72

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は、2021年１月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。2021年９月期の連結業績予想における１株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年９月期３Ｑ	3,055,000株	2020年９月期	3,049,000株
②　期末自己株式数	2021年９月期３Ｑ	224株	2020年９月期	224株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2021年９月期３Ｑ	3,050,776株	2020年９月期３Ｑ	3,048,920株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 5
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 5
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等） …… 7
３．その他 …… 9
継続企業の前提に関する重要事象等 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間（2020年10月１日から2021年６月30日まで）におけるわが国経済は、政府・自治体による各種政策等の効果により、一旦は生産や消費活動に持ち直しの兆しが見られましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が長期化し、2021年４月下旬には３度目の緊急事態宣言が発出されるなど、事態の収束は依然として予測できず、ワクチン接種が開始したことによる経済回復が期待されつつも、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの属する情報サービス産業におきましては、ウィズコロナ/アフターコロナ時代に対応したクラウドサービスの活用や、ＡＩ（人工知能）・ロボット技術を活用したリモート作業、ＥＣ（電子商取引）ビジネス、リモートワーク環境の整備などの需要が増加傾向となりました。また、政府によるデジタル庁新設の発表により、社会全体の変革を目的としたＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）推進が浸透し始めてきており、企業競争力の強化・業務効率化のためのＩＴ投資は中長期的に増加していくものと見込まれます。

しかし一方で、長期化する経済活動の自粛に加え、景気後退によりＩＴ投資を控えざるを得ない顧客企業もあるなど、投資内容や顧客企業の業種により投資意欲の偏りが生じており、今後も予断を許さない状況が続くと見込まれます。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「コンピュータ関連業務を通じて無限の夢を創造する、無限の夢を実現する組織」を基本理念に、新中期経営計画（2021年９月期～2023年９月期）を策定し、「人材の確保及び育成」、「キーワード（巣ごもり需要、脱ハンコ、リモートワーク等）に応じたＩＴ技術の提供」、「内部管理体制の強化」等を経営方針とした、ポストコロナを見据えた市場ニーズを享受できる体制づくりを積極的に行ってまいりました。

また、当初より、当社グループにおきましては、社内の働き方改革を推進してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、社内外への感染防止と従業員の安全確保を最優先に考え、テレワーク体制の一層の強化をはかってまいりました。営業活動におきましては、Ｗｅｂ会議システムを活用した商談や、オンラインマーケティングを積極的に活用し、ウィズコロナ/アフターコロナ時代における新たな働き方へ順応してまいりました。

この結果、当第３四半期連結累計期間における売上高は、3,478百万円（前年同期比6.1％増）、営業利益226百万円（同54.7％増）、経常利益228百万円（同54.0％増）、親会社株主に帰属する当四半期純利益は155百万円（同60.2％増）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりです。
なお、各セグメントの業績数値には、セグメント間の内部取引高を含んでおります。

（システムインテグレーション事業）

業務用システムの設計、開発及び構築、運用保守の各工程を、当社グループにて提供できる体制（ワンストップ体制）を構築しており、顧客の要望に応じて、全工程の業務サービス、または、工程別の業務サービス提供を行っております。ＩＴ通信業・金融業・流通業・医療・官公庁等の幅広い業種に対応しており、業務用アプリケーションの設計開発業務、インフラシステムの設計構築業務、業務用アプリケーション・インフラシステムの運用保守業務等を行っております。

前連結会計年度の後半においては、新型コロナウイルス感染症の影響から、プロジェクトの一部中止や開発時期の先送りなどが生じたことにより、エンジニアの稼働率が大きく低下しておりましたが、当第３四半期累計期間においては、ほぼ全てのエンジニア工数を稼働することができております。

また、新しい生活様式により、クラウドサービスやリモートワーク関連案件、ＧＩＧＡスクール構想案件の引き合いが増加傾向となった一方で、当第３四半期（2021年４月１日から2021年６月30日）においては、半導体不足の影響から、ＩＴ機器の納入遅延によるネットワーク構築関連案件の一部先送りが発生いたしました。世界的な半導体不足の解消は2022年になるとも言われており、当社グループにおいても半導体不足は懸念事項であると認識しております。

なお、2021年９月に予定しているデジタル庁の新設に伴い、ますます企業のＤＸ化は推進されていくものと見込んでおります。現時点においても当社ホームページへの問い合わせ件数は増加傾向にあり、引き続き、当社グループではＤＸ推進サービスの拡充に注力してまいります。

これらの結果、売上高は3,259百万円（前年同期比5.3％増）となりました。セグメント利益につきましては、元請け案件比率が堅調に増加したことも要因となり、666百万円（同16.0％増）となりました。

（教育サービス事業）

ＩＴ研修の企画及びコンサルティング、研修プログラムの開発、研修実施の各工程を当社グループにて提供できる体制を構築しており、顧客の要望に応じて、全工程の業務サービス、または、工程別の業務サービス提供を行っております。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を背景に、2020年４月より提供を開始した「リモート研修サービス」を更にブラッシュアップし、リモート受講できる研修コースを拡充するとともに、講師の育成強化をはかりました。引き続き、テレワークが推奨されるなか、「リモート研修サービス」は好評をいただいております。新しい生活様式において、受講場所にとらわれないリモート研修の需要は、今後も増加していくものと見込んでおります。

また、ネットワーク経由でサービスを利用できるクラウドの普及が急速に進むなかで、新たに「クラウド開発環境で学ぶ、実践型システム開発トレーニング研修（ＡＷＳ/ＧｉｔＨｕｂ）」の提供も開始いたしました。

なお、毎年、主に４月～６月にかけて実施する新入社員向け研修につきましては、セールス活動及び講師の育成を積極的に推進したことから、案件の引き合いは前期比で増加傾向となりました。

これらの結果、売上高は247百万円（前年同期比19.6％増）となりましたが、セグメント利益につきましては、一部案件にて、顧客企業の個別要望に沿った内容に修正するための追加費用が発生したため、106百万円（同1.2％減）となりました。

（２）財政状態の分析

①流動資産

当第３四半期連結会計期間末における流動資産は1,573百万円となり、前連結会計年度末に比べ302百万円増加いたしました。これは、主に現金及び預金が144百万円、売掛金が144百万円増加したことによるものであります。

②固定資産

当第３四半期連結会計期間末における固定資産は520百万円となり、前連結会計年度末に比べ27百万円増加いたしました。これは、主に繰延税金資産が40百万円増加したことによるものであります。

③流動負債

当第３四半期連結会計期間末における流動負債は844百万円となり、前連結会計年度末に比べ186百万円増加いたしました。これは、主に買掛金が25百万円、未払費用が168百万円、未払法人税等が82百万円増加した一方、賞与引当金が71百万円減少したことによるものであります。

④固定負債

当第３四半期連結会計期間末における固定負債は218百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円増加いたしました。これは、主に退職給付に係る負債が23百万円増加したことによるものであります。

⑤純資産

当第３四半期連結会計期間末における純資産は1,031百万円となり、前連結会計年度末に比べ120百万円増加いたしました。これは、利益剰余金が117百万円増加したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年９月期の連結業績予測につきまして、今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響や、世界的な半導体不足による影響を日々精査しておりますが、現時点では2020年11月13日の「2020年９月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予測に変更はありません。

なお、今後、状況の進展及び事業の進捗を踏まえ、業績予測の修正が必要となった場合には速やかに開示いたします。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2020年９月30日)	当第３四半期連結会計期間 (2021年６月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	736,470	880,726
売掛金	449,169	593,182
商品	4,202	5,207
仕掛品	22,506	23,855
その他	58,844	70,984
流動資産合計	1,271,194	1,573,956
固定資産		
有形固定資産	156,120	155,141
無形固定資産	60,968	48,607
投資その他の資産		
繰延税金資産	114,313	154,931
その他	161,615	162,098
投資その他の資産合計	275,928	317,029
固定資産合計	493,017	520,778
資産合計	1,764,211	2,094,734
負債の部		
流動負債		
買掛金	123,022	148,969
1年内返済予定の長期借入金	9,481	―
未払費用	140,370	308,901
未払法人税等	19,947	102,298
賞与引当金	157,139	85,999
その他	208,638	198,571
流動負債合計	658,600	844,740
固定負債		
退職給付に係る負債	169,603	193,027
その他	25,156	25,919
固定負債合計	194,759	218,947
負債合計	853,359	1,063,687
純資産の部		
株主資本		
資本金	290,040	290,940
資本剰余金	214,040	214,940
利益剰余金	410,992	528,070
自己株式	△174	△174
株主資本合計	914,897	1,033,776
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	△4,045	△2,730
その他の包括利益累計額合計	△4,045	△2,730
純資産合計	910,851	1,031,046
負債純資産合計	1,764,211	2,094,734

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2019年10月１日 至　2020年６月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2020年10月１日 至　2021年６月30日）
売上高	3,277,770	3,478,437
売上原価	2,618,755	2,734,010
売上総利益	659,014	744,426
販売費及び一般管理費	512,470	517,738
営業利益	146,544	226,688
営業外収益		
受取利息	4	3
助成金収入	330	1,823
受取手数料	1,947	－
営業外収益合計	2,281	1,827
営業外費用		
支払利息	459	229
支払保証料	145	29
営業外費用合計	605	258
経常利益	148,220	228,256
特別損失		
固定資産除却損	4,241	－
特別損失合計	4,241	－
税金等調整前四半期純利益	143,978	228,256
法人税、住民税及び事業税	75,677	114,266
法人税等調整額	△28,591	△41,198
法人税等合計	47,086	73,068
四半期純利益	96,892	155,188
非支配株主に帰属する四半期純利益	－	－
親会社株主に帰属する四半期純利益	96,892	155,188

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2019年10月１日 至　2020年６月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2020年10月１日 至　2021年６月30日）
四半期純利益	96,892	155,188
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	1,626	1,315
その他の包括利益合計	1,626	1,315
四半期包括利益	98,519	156,504
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	98,519	156,504
非支配株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　2019年10月１日　至　2020年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		
	システムインテグレーション事業	教育サービス事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	3,093,745	184,025	3,277,770
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	23,200	23,200
計	3,093,745	207,225	3,300,970
セグメント利益	574,768	107,446	682,214

２．報告セグメント合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上	金額
報告セグメント計	3,300,970
調整額（セグメント間取引消去）	△23,200
四半期連結財務諸表の売上高	3,277,770

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	682,214
調整額（セグメント間取引消去）	△23,200
販売費及び一般管理費	△512,470
四半期連結財務諸表の営業利益	146,544

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　2020年10月１日　至　2021年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		
	システムインテグレーション事業	教育サービス事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	3,259,190	219,246	3,478,437
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	28,600	28,600
計	3,259,190	247,846	3,507,037
セグメント利益	666,900	106,126	773,026

２．報告セグメント合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上	金額
報告セグメント計	3,507,037
調整額（セグメント間取引消去）	△28,600
四半期連結財務諸表の売上高	3,478,437

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	773,026
調整額（セグメント間取引消去）	△28,600
販売費及び一般管理費	△517,738
四半期連結財務諸表の営業利益	226,688

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

３．その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。